

第 47 話〈開山時期〉の要約と参考資料

第 47 話〈開山時期〉の要約

池田牧然獣医の報告記は、亜硫酸鉍山の開山が大正 9 (1920) 年 6 月だったと記述していました。土呂久公害の 2 人の体験者が、自分や家族のできごとと結びつけて、亜硫酸の製造開始時期を記憶していました。その証言は獣医の報告記を裏付けるものでした。

第 47 話〈開山時期〉の参考資料

47-1 亜硫酸製造が始まった時期について

池田牧然「岩戸村土呂久放牧場及土呂久亜硫酸鉍山ヲ見テ」(大正 14 年 4 月 12 日) より抜粋

吾輩ノ見タ同鉍ハ、小字惣見ノ下部落、土呂久ノ中央部ヲ貫流スル川側ニアル。同山ハ大正九年六月ノ開山デ、鉍業所ハ奥行三間位デ、長サ十五、六間モアロウ。其間ニ、簡単ナ石垣デ造ツタ二間四方位ノ砒石ヲ焼ク釜ガ五ツ六ツニ、精鍊釜ガ五ツ六ツアル。其ノ釜ノ中央部ニ、一尺四方位デ、高サ三間位ノ煙突ガ二本見ユル。茲ニ初メテ行ツタ吾々ノ鼻ニハ、一種云ヒ得ヌ峻烈ナル臭気ガ鼻腔ヲ突キ、目ヤ咽喉ヲ極端ニ刺戟シタ。此処ニ働ク工夫工女連中ハ、覆面シテロニハマスクヲ掛ケテ居ル。

二、三ノ釜ニハ、拳大ニ丸メタ砒石ノ鉍石ガ入レテ、薪ニ炎ヲ付ケテ、亜硫酸ヲ製造シテ居タ。二ツノ釜ハ、今火ヲ消シテ、亜硫酸ヲ採取シテ居タ。此ノ亜硫酸ノ鉍石ハ、地下ヨリ掘リ取ルノデアアルガ、亜硫酸ハ鉍石ノ焼クル煙ノ中ニ含マツテ、其レガ釜内デ凝結シテ採レルト云フ事ダガ、実ニ多量ニ含有シテ居ルモノラシイ。斯ナ設備ト彼ノ方法デ採ツタモノヲ、大阪辺デ精製サルレバ、貴重ナル薬品トカ染料、又ハ印刷用肉ノ原料ニナルカト、実ニ結構ナ事業デアル。

乍而、吾々ハ此亜硫酸ハ毒薬デアル事ヲ承知シテ居ルガ、其ノ焼殻ヲ、水清キ土呂久川ニ遠慮モナク投ゲ込ムノヲ見テ、不思議ニ思フタ。是等ノモノニ対シテハ、河川港湾取締規則ハ適要セザルモノナルヤト思ヒマシタ。(句読点、川原)

宮崎県「土呂久地区の鉍害にかかわる社会医学的調査の要約」(1972 年 7 月) より

土呂久地区並びに山附地区の概要

2 土呂久鉍山について

(A) 沿革(「九州の金属鉍業」通産省編、参考)

(略) 明治維新後は、肥後の国細川家の老橋本伊十郎が、鉍山の開発を企図したが不成功に終り、明治の中期から大正 9 年まで、岩戸村の住人竹内令さく(貝に乍)氏が亜硫酸の精鍊を行った。同 9 年から 14 年まで大分県の宮城正一氏、同 15 年から昭

和 9 年まで、大分県佐伯市の川田平三郎氏らの手に渡った（略）

佐藤カジさんの話（1977 年 10 月 30 日聴取）

宮城さんが始めたのが大正 9 年じゃからな。5 月ごろ^{かきつき}窯築をしようた。良蔵（カジさんの夫）が窯築に行きよった。はよ帰ったもんじゃから、道路づくりの手伝いに行った。惣見のカーブづくりに出とった「白石」（屋号）のじいさん（豊三郎）がハッパにかかって、左手の指 2 本が飛んでしもうて、中指も役せざった。

4 7 - 2 最初の亜硫酸ができた場面

川原一之著「口伝 亜硫酸焼き谷」（P5—6）より

窯築が始まって、どのくらいの日数がたったろうか。「できたぞ。できた」。男が「樋の口」の土間に駆け込んで大声をあげた。両手に、新聞紙の包みを大切そうにかかえてある。家ん中から、年保さんと^{つよし}勘さんが飛び出しちくる。土間に置いた包みが、二人の目の前で開かれた。出てきたのは、雪んように真白い粉。一升ばかりあったろうか。この粉を見て、年保さんは跳びあがって喜んだ。さっそく八畳の居間では、窯祝いの飲み方たい。上機嫌の年保さんが、窯をつくった夫婦もんや石工の高市つあんに、焼酎をついで回った。

この様子を、物陰からそっと見ていた少年がおった。「竹の花」の実雄さんじゃ。岩戸尋常小学校を卒業して「樋の口」へ年季奉公に出た最初ん年、つまり大正 9 年の出来事になる。こんとき宝物んごつ大切にされた真白い粉が、土呂久鉦山で焼かれた^{あひさん}亜硫酸第一号じゃったつよ。

4 7 - 3 佐藤実雄さんが尋常小学校を卒業した時期

Wikipedia「尋常小学校」による尋常小学校卒業時年齢

1907（明治 40）年 3 月の小学校令一部改正により、尋常小学校の修業年限が 6 年に延長され、尋常小学校修了時の年齢は 12 歳になった。

佐藤実雄さんが尋常小学校を卒業した年

生年月日：1907（明治 40）年 9 月 1 日

尋常小学校就学時年齢（6 歳）になったのは：1913（大正 2）年 9 月 1 日

岩戸尋常小学校入学：1914（大正 3）年 4 月

尋常小学校修了時年齢（12 歳）になったのは：1919（大正 7）年 9 月 1 日

岩戸尋常小学校卒業：1920（大正 9）年 3 月